



Red Hat Decision Manager 7.13

Red Hat Decision Manager 7.13 のリリースノート

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このドキュメントは、Red Hat Decision Manager 7.13 のリリースノートです。

目次

はじめに	4
多様性を受け入れるオープンソースの強化	5
第1章 製品の概要	6
第2章 新機能	7
2.1. 統一された製品の配信可能ファイルと RED HAT DECISION MANAGER 配布ファイルの非推奨	7
2.2. 意思決定管理コンポーネントと機能のみを有効にする機能	7
2.3. ルートターミネーションを変更し、エッジターミネーションを有効にする機能	7
2.4. カスタムレジストリーと特定のイメージを使用する機能	7
2.5. KIEAPP 設定中に、管理者ユーザーのシークレットを使用する機能	7
2.6. ルートターミネーションを変更し、エッジターミネーションを有効にする機能	7
2.7. DMN デザイナー	7
2.8. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	8
2.9. RED HAT BUILD OF OPTAPLANNER	8
2.10. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	8
第3章 サポートおよび互換性	10
第4章 非推奨コンポーネント	11
4.1. BUSINESS OPTIMIZER	11
4.2. OPTAPLANNER 7	11
4.3. BUSINESS CENTRAL の OPTAPLANNER ツールコンポーネント	11
4.4. 統一された製品の配信可能ファイルと RED HAT DECISION MANAGER 配布ファイルの非推奨	11
4.5. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 3	11
4.6. RED HAT ENTERPRISE LINUX 7	12
4.7. JDK 8 のサポート	12
4.8. 古い KIE-PMML 依存関係	12
4.9. OSGI フレームワーク統合のサポート	12
4.10. RULEUNIT API のサポート	12
4.11. レガシーのテストシナリオツール	12
4.12. HACEP のサポート	12
第5章 テクノロジーレビュー	13
5.1. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 4.X への高可用性のオーサリング環境のデプロイ	13
5.2. OPENSIFT OPERATOR インストーラーウィザード	13
5.3. オーサリングパースペクティブのカスタマイズ	13
5.4. RED HAT BUILD OF OPTAPLANNER の新しい制約コレクター	13
5.5. RED HAT BUILD OF KOGITO と KAFKA の統合	14
第6章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13 における既知の問題	15
6.1. SPRING BOOT	15
6.2. RED HAT BUILD OF KOGITO	15
第7章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13 で修正された問題	17
7.1. BUSINESS CENTRAL	17
7.2. ビルドおよびアセンブリー	17
7.3. KIE SERVER	17
7.4. RED HAT BUILD OF KOGITO	17
7.5. DMN デザイナー	17
7.6. 移行	17
7.7. 認定	18

7.8. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	18
7.9. デシジョンエンジン	18
第8章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.1 における既知の問題	19
8.1. BUSINESS CENTRAL	19
8.2. フォームモデラー	19
8.3. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	19
第9章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.1 で修正された問題	21
9.1. BUSINESS CENTRAL	21
9.2. KIE SERVER	21
9.3. RED HAT BUILD OF KOGITO	21
9.4. DMN デザイナー	21
9.5. 設定	21
9.6. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	21
9.7. デシジョンエンジン	22
第10章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.2 における既知の問題	23
10.1. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	23
第11章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.2 で修正された問題	24
11.1. BUSINESS CENTRAL	24
11.2. KIE SERVER	24
11.3. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	24
11.4. デシジョンエンジン	24
第12章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.3 で修正された問題	25
12.1. BUSINESS CENTRAL	25
12.2. RED HAT BUILD OF KOGITO	25
12.3. DMN デザイナー	25
12.4. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	25
12.5. デシジョンエンジン	25
第13章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.4 の既知の制限事項	26
13.1. BUSINESS CENTRAL	26
第14章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.4 で修正された問題	27
14.1. BUSINESS CENTRAL	27
14.2. KIE SERVER	27
14.3. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	27
14.4. デシジョンエンジン	28
付録A バージョン情報	29
付録B お問い合わせ先	30

はじめに

このリリースノートでは、Red Hat Decision Manager 7.13 の新規機能、テクニカルプレビュー機能、既知の問題、および修正された問題を説明します。

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みにより、これらの変更は今後の複数のリリースに対して段階的に実施されます。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

第1章 製品の概要

Red Hat Decision Manager は、ビジネスルール管理、複合イベント処理、Decision Model & Notation (DMN) 実行と、プランニングの問題を解決する Red Hat build of OptaPlanner を組み合わせた、オープンソースの意思決定管理プラットフォームです。これにより、ビジネス上の意思決定を自動化し、そのロジックをビジネス全体で利用できるようにします。

ルール、デシジョンテーブル、DMN モデルなどのビジネスアセットは、集中リポジトリに保存されます。これにより、ビジネス全体で一貫性や透明性を維持し、監査を行えます。ビジネスユーザーは、IT 担当者からのサポートなしでビジネスロジックを編集できます。

Red Hat Decision Manager 7.13 では安定性が増し、問題がいくつか修正され、新機能が追加されています。

Red Hat Decision Manager は Red Hat OpenShift Container Platform で完全にサポートされており、各種プラットフォームにインストールできます。

Red Hat Decision Manager のサポートポリシーの詳細は、[Release maintenance plan for Red Hat Decision Manager 7.x and Red Hat Process Automation Manager 7.x](#) を参照してください。

第2章 新機能

このセクションでは、Red Hat Decision Manager 7.13 の新機能を説明しています。

2.1. 統一された製品の配信可能ファイルと RED HAT DECISION MANAGER 配布ファイルの非推奨

Red Hat Process Automation Manager 7.13 リリースでは、Red Hat Decision Manager のディストリビューションファイルは Red Hat Process Automation Manager ファイルに置き換えられます。Red Hat Decision Manager サブスクリプションに変更はなく、サポートのエンタイトルメントと料金は同じままであることに注意してください。Red Hat Decision Manager は Red Hat Process Automation Manager のサブセットであり、Red Hat Decision Manager サブスクライバーは引き続き意思決定管理および最適化機能の完全なサポートを受けます。ビジネスプロセス管理 (BPM) 機能は、Red Hat Process Automation Manager 専用であり、Red Hat Decision Manager サブスクライバーが使用できませんが、開発サポートサービスでのみ使用できます。Red Hat Decision Manager サブスクライバーは、いつでも完全な Red Hat Process Automation Manager サブスクリプションにアップグレードして、BPM 機能の完全なサポートを受けることができます。

Red Hat Decision Manager コンテナイメージは、統一された成果物で非推奨になりました。Red Hat Decision Manager サブスクライバーは、代わりにバージョン 7.13 以降の最新の Red Hat Process Automation Manager イメージをアップグレードまたはインストールできます。

2.2. 意思決定管理コンポーネントと機能のみを有効にする機能

これで、意思決定管理に関連するコンポーネントと機能のみを有効にして、jBPM とケース管理機能を無効にするようにデプロイメントを設定できます。

2.3. ルートターミネーションを変更し、エッジターミネーションを有効にする機能

環境の設定中に、ルートターミネーションの変更、エッジターミネーションの有効化、およびオプションの認証情報を設定できるようになりました。

2.4. カスタムレジストリーと特定のイメージを使用する機能

これで、環境の設定中に特定のイメージを使用するようにカスタムレジストリーを設定できます。

2.5. KIEAPP 設定中に、管理者ユーザーのシークレットを使用する機能

これで、KieApp の設定中に、管理者ユーザーの認証情報を含むシークレットを使用できるようになりました。

2.6. ルートターミネーションを変更し、エッジターミネーションを有効にする機能

環境の設定中に、ルートターミネーションを変更したり、エッジターミネーションを有効にしたり、オプションの認証情報を設定したりできるようになりました。

2.7. DMN デザイナー

2.7.1. Drools DMN Engine による DMN 仕様 v1.4 のサポート

Red Hat Decision Manager は、Drools DMN エンジンで DMN Specification v1.4 のランタイムサポートを提供するようになりました。

2.8. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

2.8.1. Operator インストーラーを使用する場合の設定可能な起動ストラテジー

Operator インストーラーを使用して Red Hat OpenShift Container Platform に Red Hat Decision Manager をデプロイする場合、デプロイメントはデフォルトで **OpenShiftStartupStrategy** 設定を使用します。必要に応じて、設定ユーザーインターフェイスでコントローラーの起動ストラテジーに切り換えることができます。

2.8.2. カスタムホスト名ルート

routeHostname プロパティを使用して、外部ルートのカスタムホスト名を設定できるようになりました。

2.8.3. SSL 設定性の向上

Operator で SSL を有効または無効にすると、SSL ルートを公開することができるようになりました。

2.8.4. ドメインリソース共有 (CORS) のデフォルト設定

デフォルトまたはユーザーカスタマイズされた CORS 設定を使用するかどうかを指定できるようになりました。

2.8.5. Red Hat OpenShift Container Platform での Red Hat Data Grid のユーザー名およびパスワード設定

高可用性の Red Hat Decision Manager 環境を Red Hat OpenShift Container Platform にデプロイする際に、Red Hat Data Grid コンポーネントのユーザー名およびパスワードを設定できるようになりました。

2.9. RED HAT BUILD OF OPTAPLANNER

2.9.1. Micrometer を使用した Red Hat build of OptaPlanner ソルバー

Micrometer を使用する OptaPlanner ソルバーの監視には、追加のメトリックを使用することができます。

2.10. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

2.10.1. カスタムのホスト名ルート

routeHostname プロパティを使用して、外部ルートのカスタムホスト名を設定できるようになりました。

2.10.2. SSL 設定性の向上

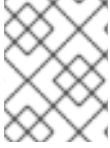
Operator で SSL を有効または無効にすると、SSL ルートを公開することができるようになりました。

2.10.3. CORS (Cross Domain Resource Sharing) のデフォルト設定

デフォルトまたはユーザーがカスタマイズした CORS 設定を使用するかどうかを指定できるようになりました。

第3章 サポートおよび互換性

このセクションでは、Red Hat Decision Manager 7.13 でサポート対象となるバージョンに関する更新内容を説明します。



注記

Oracle WebLogic Server (WLS) は、Red Hat Decision Manager 7.13.4 SP2 に対してテストまたは検証されていません。

サポートされる設定の完全リストは、[Red Hat Decision Manager 7 Supported Configurations](#) を参照してください。

表3.1 Red Hat Decision Manager 7.13 でサポートされる設定

コンポーネント	サポート対象バージョン	備考
Red Hat build of Quarkus	2.7.x	NA
Red Hat JBoss EAP	7.4.x	Red Hat Decision Manager は Red Hat JBoss EAP バージョン 7.4.2 以降をサポート
Spring Boot	2.5.12	NA
AMQ Streams	2.2	高可用性イベント駆動型の決定でサポート
Red Hat JBoss Web Server	5.6	NA
Red Hat OpenShift Container Platform	4.12	NA

第4章 非推奨コンポーネント

このセクションのコンポーネントは非推奨になります。

4.1. BUSINESS OPTIMIZER

Red Hat Decision Manager の一部として含まれている Business Optimizer (OptaPlanner) 8.13.x は、メンテナンスサポート期間中となっています。OptaPlanner のサポートされている最新バージョン (8.29 以降) については、Red Hat Application Foundations への最新の追加である Red Hat build of OptaPlanner にアップグレードします。詳細は [Red Hat build of OptaPlanner is now available in Red Hat Application Foundations](#) を参照してください。

4.2. OPTAPLANNER 7

OptaPlanner 7 および OptaPlanner 8 の両方が Red Hat Decision Manager 7.13 に含まれますが、OptaPlanner 7 は非推奨となり、今後のリリースで削除される可能性があります。OptaPlanner 7 プロジェクトの OptaPlanner 8 への移行に関する詳細は、[Red Hat build of OptaPlanner プロジェクトの OptaPlanner 8 へのアップグレード](#) を参照してください。

4.3. BUSINESS CENTRAL の OPTAPLANNER ツールコンポーネント

Business Central の以下の OptaPlanner ツールは、OptaPlanner 7 に含まれます。これらは非推奨となり、今後のリリースで削除される可能性があります。

- データモデラーのアノテーション
- OptaPlanner スコア変更のガイド付きルールエディターアクション
- ソルバーアセット

4.4. 統一された製品の配信可能ファイルと RED HAT DECISION MANAGER 配布ファイルの非推奨

Red Hat Process Automation Manager 7.13 リリースでは、Red Hat Decision Manager のディストリビューションファイルは Red Hat Process Automation Manager ファイルに置き換えられます。Red Hat Decision Manager サブスクリプションに変更はなく、サポートのエンタイトルメントと料金は同じままであることに注意してください。Red Hat Decision Manager は Red Hat Process Automation Manager のサブセットであり、Red Hat Decision Manager サブスクライバーは引き続き意思決定管理および最適化機能の完全なサポートを受けます。ビジネスプロセス管理 (BPM) 機能は、Red Hat Process Automation Manager 専用であり、Red Hat Decision Manager サブスクライバーが使用できますが、開発サポートサービスでのみ使用できます。Red Hat Decision Manager サブスクライバーは、いつでも完全な Red Hat Process Automation Manager サブスクリプションにアップグレードして、BPM 機能の完全なサポートを受けることができます。

Red Hat Decision Manager コンテナイメージは、統一された成果物で非推奨になりました。Red Hat Decision Manager サブスクライバーは、代わりにバージョン 7.13 以降の最新の Red Hat Process Automation Manager イメージをアップグレードまたはインストールできます。

4.5. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 3

Red Hat OpenShift Container Platform 3 のサポートは、このリリースで削除されました。

4.6. RED HAT ENTERPRISE LINUX 7

Red Hat Decision Manager での Red Hat Enterprise Linux 7 のサポートは非推奨となり、機能とサポートは今後のリリースで削除予定です。

4.7. JDK 8 のサポート

JDK 8 のサポートは Red Hat Decision Manager で非推奨となり、今後のリリースで削除される可能性があります。

サポート対象の JDK 設定に関する全リストは、[Red Hat Decision Manager 7 Supported Configurations](#) を参照してください。

4.8. 古い KIE-PMML 依存関係

レガシーの **kie-pmml** 依存関係は Red Hat Decision Manager 7.10.0 で非推奨となっており、今後の Red Hat Decision Manager リリースで依存関係に置き換えられます。詳細は、[Designing a decision service using PMML models](#) を参照してください。

4.9. OSGI フレームワーク統合のサポート

Red Hat Decision Manager では、OSGi フレームワークとの統合のサポートは非推奨になりました。新しい拡張機能や機能は提供されておらず、将来のリリースで削除される予定です。現在、デシジョンエンジンと OSGi フレームワークとの統合は、Fuse バージョン 7.8 と互換性がありません。OSGi フレームワークを使用する場合は、新しい Fuse バージョン 7.9 が利用可能で認定されるまで、Fuse バージョン 7.7 以前の Red Hat Decision Manager バージョン 7.9 リリースをそのままご利用ください。

4.10. RULEUNIT API のサポート

Kogito RuleUnit API との互換性がないため、Red Hat Decision Manager RuleUnit API が非推奨になりました。

4.11. レガシーのテストシナリオツール

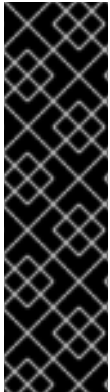
レガシーのテストシナリオツールは、Red Hat Decision Manager バージョン 7.3.0 で非推奨になりました。今後の Red Hat Decision Manager リリースで削除される予定です。代わりに、新しいテストシナリオデザイナーを使用してください。

4.12. HACEP のサポート

AMQ Streams 1.x のサポート終了のために、複合イベント処理 (CEP) を含む高可用性 (HA) イベント駆動型意思決定は非推奨になりました。

第5章 テクノロジープレビュー

このセクションでは、Red Hat Decision Manager 7.13 のテクノロジープレビュー機能を説明します。Business Central には、デフォルトで無効になっている実験的機能管理ページが含まれています。このページを有効にするには、**appformer.experimental.features** プロパティの値を **true** に設定します。



重要

この章の機能はテクノロジープレビュー機能です。テクノロジープレビュー機能は、Red Hat の実稼働環境でのサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされておらず、機能的に完全ではない可能性があるため、Red Hat では実稼働環境での使用を推奨していません。これらの機能は、今後の製品機能への早期アクセスを提供することで、お客様が機能をテストし、開発プロセス中にフィードバックを提供できるようにしています。

Red Hat のテクノロジープレビュー機能のサポートの詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

5.1. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 4.X への高可用性のオーサリング環境のデプロイ

Operator を使用して Red Hat OpenShift Container Platform 4.x に高可用性の Red Hat Decision Manager オーサリング環境にデプロイできます。

5.2. OPENSIFT OPERATOR インストーラーウィザード

インストーラーウィザードは、Red Hat Decision Manager の Red Hat OpenShift Container Platform オペレーターで提供されます。このウィザードを使用して、Operator が含まれる Red Hat OpenShift Container Platform に Red Hat Decision Manager 環境をデプロイできます。

5.3. オーサリングパースペクティブのカスタマイズ

以下のタスクを実行すると、Business Central のオーサリングパースペクティブをカスタマイズできます。

- スペースおよびプロジェクトのリストを渡さずに、URL パスパラメーターを使用して Business Central プロジェクトを直接開く。
- 要件に応じてプロジェクトツールバー、Metrics タブ、および Change Request タブを非表示または表示する。
- ページネーションを強化する。
- プロジェクト画面に存在するアセット数をカスタマイズする。

5.4. RED HAT BUILD OF OPTAPLANNER の新しい制約コレクター

Constraint Streams API を使用して既存の OptaPlanner の例の完全な実装を提供するために、制約コレクターの標準ライブラリーが拡張され、次の制約コレクターが含まれるようになりました。

- 1つの制約コレクターは、日付などのポイント値を取得し、それらを数直線上で並べ替え、グループ間の区切りを含む連続した値のグループをダウンストリームで使用できるようにします。

- 別の制約コレクターは、シフトなどの間隔値を取得し、クラスター間のブレイクを含む連続した、場合によっては重複する値のクラスターを作成し、クラスターをダウンストリームで使用できるようにします。

これらの新しいコレクターはテクノロジープレビュー中です。それらのインターフェイス、名前、および機能は変更する可能性があります。これらは、OptaPlanner パブリック API の公式にサポートされる部分になる前に、パブリックフィードバックを促進するために、パブリック API 外の実験的なパッケージに配置されています。

5.5. RED HAT BUILD OF KOGITO と KAFKA の統合

org.kie.kogito:kogito-addons-{quarkus|springboot}-events-decisions イベント駆動型アドオンを使用した Red Hat build of Kogito マイクロサービスとマネージド Kafka の統合がテクノロジープレビューとして利用可能になりました。Red Hat build of Quarkus では、**io.quarkus:quarkus-kubernetes-service-binding** 依存関係をアプリケーションに追加して、マネージドの Kafka によって作成されたサービスバインディングを処理することができます。Spring Boot では、アプリケーションが必要とする必須の環境変数が含まれる、作成されたサービスバインディングに **mappings** フィールドを追加する必要があります。もう1つの解決策は、Red Hat build of Kogito オペレーターで使用可能なカスタム設定マップを使用することです。

第6章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13 における既知の問題

このセクションでは、Red Hat Decision Manager 7.13 における既知の問題を説明します。

6.1. SPRING BOOT

Spring Boot 依存関係の誤った管理バージョン [RHPAM-4413]

問題: Maven リポジトリの Spring Boot バージョン (2.6.6) は Red Hat によって認定されていません。したがって、製品化されたバイナリーで Narayana スターターが一致しません。

回避策: `pom.xml` ファイルで、以下のプロパティを定義して、現在のバージョンをオーバーライドします。

```
<version.org.springframework.boot>2.5.12</version.org.springframework.boot>  
<version.me.snowdrop.narayana>2.6.3.redhat-00001</version.me.snowdrop.narayana>
```

6.2. RED HAT BUILD OF KOGITO

Red Hat build of Kogito がサポートされない Spring Boot バージョンと整合しています [RHPAM-4419]

問題: Red Hat build of Kogito Spring Boot バージョンは、依存関係管理を **org.springframework.boot:spring-boot-dependencies** BOM からインポートする **kogito-spring-boot-bom** ファイルで管理されます。現在調整されているバージョンは 2.6.6 であり、Red Hat でサポートされているバージョンにはマップされません。サポートされている最新バージョンは 2.5.12 です。Red Hat がサポートするバージョン 2.5.12 に合わせた BOM で、依存関係管理をオーバーライドする必要があります。

回避策:

1. インポートされた BOM ファイルの順序を維持するには、まず Spring Boot BOM を含め、次に Red Hat build of Kogito 固有の BOM ファイルを含めます。

```
<dependencyManagement>  
  <dependencies>  
    <dependency>  
      <groupId>dev.snowdrop</groupId>  
      <artifactId>snowdrop-dependencies</artifactId>  
      <version>2.5.12.Final-redhat-00001</version>  
      <type>pom</type>  
      <scope>import</scope>  
    </dependency>  
    <dependency>  
      <groupId>org.kie.kogito</groupId>  
      <artifactId>kogito-spring-boot-bom</artifactId>  
      <version>1.13.2.redhat-00002</version>  
      <type>pom</type>  
      <scope>import</scope>  
    </dependency>  
  </dependencies>  
</dependencyManagement>
```

2. **spring-boot-maven-plugin** のバージョンをプロジェクトビルド設定ファイル内の同じバージョンに合わせます。

```
<plugins>
  <plugin>
    <groupId>org.kie.kogito</groupId>
    <artifactId>kogito-maven-plugin</artifactId>
    <version>1.13.2.redhat-00002</version>
    <extensions>>true</extensions>
  </plugin>
  <plugin>
    <groupId>org.springframework.boot</groupId>
    <artifactId>spring-boot-maven-plugin</artifactId>
    <version>2.5.12</version>
    <executions>
      <execution>
        <goals>
          <goal>repackage</goal>
        </goals>
      </execution>
    </executions>
  </plugin>
</plugins>
```

Red Hat build of Kogito on Spring Boot は、Kafka-clients バージョンの不整合につながり
ます [RHPAM-4418]

問題: Red Hat build of Kogito Spring Boot の Kafka-clients 依存関係バージョンは、デフォルトで **org.springframework.boot:spring-boot-dependencies** BOM によって管理されます。使用されている Spring Boot のバージョンによっては、ユーザーは、サポートされていないバージョン、または脆弱なバージョンの Kafka クライアントを使用することになる可能性があります。 **kogito-spring-boot-bom** のデフォルトの依存関係をオーバーライドして、期待される Kafka-clients のバージョンに準拠するようする必要があります。

回避策: プロジェクトで、 **org.apache.kafka:kafka-clients** 依存関係に対して **dependencyManagement** を明示的に定義して、AMQ Streams によってリリースされたバージョンを使用します。

第7章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13 で修正された問題

Red Hat Decision Manager 7.13 の安定性が増し、このセクションに挙げる問題が修正されました。

7.1. BUSINESS CENTRAL

- 以前のバージョンから 7.12.0 バージョンに移行すると、Business Central は **no marshaller for type: org.guvnor.structure.contributors.Contributor** エラーを表示して起動に失敗します [RHPAM-4152]
- SSH 経由でのプロジェクトのインポートがプロキシ上で機能しません [RHPAM-3954]
- ガイド付きルール式エディターのテキストボックスは、ドット (.) で区切られた複数のテキストボックスに式を分割します [RHPAM-3679]
- ガイド付きデシジョンテーブルで、外部データソースからのデータの検索機能を許可します [RHPAM-3415]

7.2. ビルドおよびアセンブリー

- 特別に細工された TAR アーカイブを読んでいる際、Apache Ant ビルドは大量のメモリーを割り当て、小さな入力でもメモリー不足エラーが発生します [RHPAM-3802]

7.3. KIE SERVER

- **JSONMarshaller** がクラスローダーから **com.nonexisting.Person** クラスを見つけられない場合、オブジェクトを **com.nonexisting.Person** キーを持つ **LinkedHashMap** としてデシリアライズするので、マッチングルールが成立しないことがあります [RHPAM-4134]

7.4. RED HAT BUILD OF KOGITO

- シナリオシミュレーションの依存関係を含む Red Hat build of Kogito サンプルのテストを実行できません。Surefire プラグインは例外で失敗します [RHPAM-4068]

7.5. DMN デザイナー

- 追加した DMN モデルからビジネスナレッジモデル (BKM: Business Knowledge Model) 関数を呼び出そうとすると、検証に失敗します [RHDM-1395]
- Java 関数を呼び出す DMN ファイルを検証しているときに、エラーメッセージを受け取ります [RHPAM-3500]
- オブジェクト接続の Elbow 行が機能しません [RHDM-1856]
- DMN Modeller の **ドキュメント** タブを使用して意思決定モデルを公開すると、PDF ファイルが生成されます。**データタイプ** セクションで、データタイプ名が長い場合は読み取りできません。データタイプ名の一部が3つのドットに置き換えられます [RHDM-1690]
- スタンドアロン DMN エディターに **isDirty** 表示がなく、データタイプまたは含まれているモデルの変更を反映できません [RHDM-1560]

7.6. 移行

- Red Hat Decision Manager のディストリビューションファイルは、Red Hat Process Automation Manager ファイルに置き換えられます [RHPAM-3917]

7.7. 認定

- AMQ Streams 1.x のサポートが終了したため、HA CEP リファレンス実装のサポートを終了しました [RHPAM-4416]

7.8. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

- LDAP が Red Hat OpenShift Container Platform 4 の Operator によって統合されている場合、LDAP レルムに **direct-verification=true** が設定されていないため、LDAP 認証は失敗します [RHPAM-4148]
- CRD ファイルからルートターミネーションを設定する機能を追加します [RHPAM-4125]
- **postconfigure.sh** スクリプトがエクステンションとして導入される場合、別の **delayedpostconfigure.sh** スクリプトが存在しない限り、カスタム KieServer S2I スクリプトとして実行されません [RHPAM-3665]
- **ImageStreams** オブジェクトは新しいイメージリリースで更新されず、**importPolicy** が必要です [RHPAM-4167]

7.9. デシジョンエンジン

- **BigDecimal** タイプと **String** タイプのプロパティを比較しているときに KJAR ビルドが実行可能モデルで失敗します [RHDM-1880]
- **varargs** 引数の呼び出しは正しく行われず、**varargs** 引数は不要な場合でも配列にラップされません [RHPAM-4186]
- **JoinNode** と **FromNode** でプロパティの反応性が一貫していません [RHDM-1881]
- 実行可能モデルは、**MathContext** を使用せずに **BigDecimal** 式を生成します [RHDM-1878]
- **SegmentPropagator** は、更新としてステージングされたタプルを処理せず、エラーを受け取ります [RHDM-1875]

第8章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.1 における既知の問題

このセクションでは、Red Hat Decision Manager 7.13.1 における既知の問題を説明します。

8.1. BUSINESS CENTRAL

JDK バージョン 11.0.16 を使用して Business Central をデプロイできない [RHPAM-4497]

問題: インストールで JDK バージョン 11.0.16 を使用している場合は、Business Central をデプロイできません。

実際の結果: 起動時に Business Central はデプロイされません。

想定される結果: Business Central が正常にデプロイされます。

回避策: 11.0.5 以前などの以前の JDK バージョンを使用してください。

8.2. フォームモデラー

showTime を false に設定して Business Central フォームを使用してプロセスを開始すると、日付タイプのプロセス変数が空になる [RHPAM-4514]

問題: Business Central でデフォルトのフォームレンダリングを使用し、プロセス変数フィールドに **showTime=false** があると、開始したプロセスインスタンスで変数が空であることが示されます。影響を受ける型は、**java.time.LocalDateTime**、**java.time.LocalDate**、**java.time.LocalTime**、および **java.util.Date** です。

問題の再現手順:

1. 特定のタイプでプロセス変数を定義します。
2. フォームを生成します。
3. フォームを開き、指定したフィールドに **showTime=false** を設定します。
4. プロジェクトをデプロイします。
5. プロセスフォームを開きます。
6. プロセスフォームで値を指定します。
7. プロセスのインスタンス変数を確認してください。指定された変数の値は空です。

回避策: なし。

java.util.Date フィールドを含む KIE Server のフォームに時刻を挿入できない [RHPAM-4513]

問題: プロセスに **java.util.Date** 型の変数がある場合、生成されたフォームで **showTime** 属性が **true** の場合、時間部分を挿入できません。次に、**Date** 変数を送信した後、データ型の時間部分にすべてゼロが表示されます。

回避策: なし。

8.3. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

互換性のないデータディレクトリーが原因で、PostgreSQL 13 Pod が起動しない [RHPAM-4464]

問題: Operator のアップグレード後に PostgreSQL Pod を開始すると、Pod の開始に失敗し、次のメッセージが表示されます。

Incompatible data directory. This container image provides PostgreSQL '13', but data directory is of version '10'. This image supports automatic data directory upgrade from '12', please carefully consult image documentation about how to use the '\$POSTGRESQL_UPGRADE' startup option.

回避策:

1. PostgreSQL のバージョンを確認します。

```
$ postgres -V
```

2. 返された PostgreSQL のバージョンが 12.x 以前である場合は、PostgreSQL をアップグレードします。

Red Hat Decision Manager のバージョン	PostgreSQL バージョン	アップグレード手順
7.13.1	7.10	データベースのアップグレード (新しい PostgreSQL イメージバージョンへの切り替えによる) の手順に従って、PostgreSQL 12.x にアップグレードします。
7.13.2	7.10	1. データベースのアップグレード (新しい PostgreSQL イメージバージョンへの切り替えによる) の手順に従って、PostgreSQL 12.x にアップグレードします。 2. データベースのアップグレード (新しい PostgreSQL イメージバージョンへの切り替えによる) の手順に従って、PostgreSQL 13.x にアップグレードします。
7.13.2	7.12	データベースのアップグレード (新しい PostgreSQL イメージバージョンへの切り替えによる) の手順に従って、PostgreSQL 13.x にアップグレードします。

3. PostgreSQL が必要なバージョンにアップグレードされていることを確認します。

```
$ postgres -V
```


第9章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.1 で修正された問題

Red Hat Decision Manager 7.13.1 の安定性が増し、このセクションに挙げる問題が修正されました。

9.1. BUSINESS CENTRAL

- `mvn test` コマンドでテストシナリオを実行すると、エラーが返される [RHDM-1539]

9.2. KIE SERVER

- `date` プロセス変数を含む `kie-server` でフォームを送信すると、`ClassCastException` が発生する [RHPAM-4326]
- EJB サービスの `saveContentFromUser` メソッドがカスタム `usercallback` で機能せず、エラーメッセージが表示される [RHPAM-4234]
- カスタムクエリーの応答が `UserTasksWithCustomVariables` マッパーで `SLAdueDate` を返さない [RHPAM-4232]
- `EventEmitter` が間違ったタスクステータスを返す [RHPAM-4091]
- KIE Server デプロイメントでカスタム設定のプロパティを使用できない [RHPAM-3976]
- `JSONMashaller ObjectMapper._typeFactory._typeCache` によるクラス保持 [RHDM-1933]
- `JSONMashaller ObjectMapper._typeFactory._typeCache` によるクラス保持で、`OutOfMemoryError: Metaspace` エラーが発生する [RHDM-1933]

9.3. RED HAT BUILD OF KOGITO

- Kogito はサポートされていない Spring Boot バージョンと整合する [RHPAM-4419]

9.4. DMN デザイナー

- DMN デザイナーで、テキストアノテーションをコピーアンドペーストして作成すると、正しく保存されない [RHDM-1890]
- DMN モデルを含めることができない [RHDM-1850]

9.5. 設定

- Spring Boot 依存関係の誤った管理バージョン [RHPAM-4413]

9.6. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

- RHPAM イメージで Red Hat JBoss EAP バージョンを 7.4.6 にアップグレードする [RHPAM-4481]
- ユーザー名やパスワードなどの機密情報が環境変数や Pod ログに公開される [RHPAM-4438]
- Kie Server OpenShift 起動戦略ウォッチャーが閉じられ、`DeploymentConfig` が更新されない [RHPAM-3333]

9.7. デシジョンエンジン

- 累積インラインコードでジェネリックを使用すると、**ClassNotFoundException** 例外でエラーが発生する [RHPAM-4444]
- ルール実行のメトリクスには、BPMN プロセスから実行されたルールを含める必要がある [RHPAM-4248]
- **NumberFormatException** [RHDM-1942] により、**kie-server-client** が応答のアンマーシャルに突然失敗する
- 生成された実行可能モデルのコンパイル中に "_this cannot be resolved" のメッセージが表示されてビルドが失敗する [RHDM-1940]
- 実行可能モデルにグローバル変数があると **LambdaConsequence** で **NullPointerException** エラーが発生する [RHDM-1920]
- 実行可能モデルの右側にバインド変数がある OR で接続された制約の解析に失敗する [RHDM-1910]
- 実行可能モデルで、**BigDecimal** リテラルが MVEL 方言が含まれる変数に設定されると、**ClassCastException** 例外が発生する [RHDM-1908]
- 実行可能モデルで、メソッド呼び出しを含む prop が変更ブロックで認識されない [RHDM-1907]
- 実行可能なモデルで、制約内の **文字列** 型強制を伴う算術演算が実行に失敗する [RHDM-1905]
- 実行可能なモデルで、制約に **BigDecimal** を使用した算術演算が失敗する [RHDM-1904]

第10章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.2 における既知の問題

このセクションでは、Red Hat Decision Manager 7.13.2 における既知の問題を説明します。

10.1. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

互換性のないデータディレクトリーが原因で、PostgreSQL 13 Pod が起動しない [RHPAM-4464]

問題: Operator のアップグレード後に PostgreSQL Pod を開始すると、Pod の開始に失敗し、次のメッセージが表示されます。

Incompatible data directory.This container image provides PostgreSQL '13', but data directory is of version '10'.This image supports automatic data directory upgrade from '12', please carefully consult image documentation about how to use the '\$POSTGRESQL_UPGRADE' startup option.

回避策:

1. PostgreSQL のバージョンを確認します。

```
$ postgres -V
```

2. 返された PostgreSQL のバージョンが 12.x 以前である場合は、PostgreSQL をアップグレードします。

Red Hat Decision Manager のバージョン	PostgreSQL バージョン	アップグレード手順
7.13.1	7.10	データベースのアップグレード (新しい PostgreSQL イメージバージョンへの切り替えによる) の手順に従って、PostgreSQL 12.x にアップグレードします。
7.13.2	7.10	<ol style="list-style-type: none"> 1.データベースのアップグレード (新しい PostgreSQL イメージバージョンへの切り替えによる) の手順に従って、PostgreSQL 12.x にアップグレードします。 2.データベースのアップグレード (新しい PostgreSQL イメージバージョンへの切り替えによる) の手順に従って、PostgreSQL 13.x にアップグレードします。
7.13.2	7.12	データベースのアップグレード (新しい PostgreSQL イメージバージョンへの切り替えによる) の手順に従って、PostgreSQL 13.x にアップグレードします。

3. PostgreSQL が必要なバージョンにアップグレードされていることを確認します。

```
$ postgres -V
```

第11章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.2 で修正された問題

Red Hat Decision Manager 7.13.2 では安定性が増し、このセクションに挙げる問題が修正されました。

11.1. BUSINESS CENTRAL

- `()not` 関数を使用すると、DMN モデルを保存できない [RHDM-1895]
- Business Central のプロキシ経由のアクセスが必要なリモート Maven リポジトリに KJAR をデプロイできない [RHPAM-4509]
- 7.12.0 以降にアップグレードすると、**Table 'rhpam.taskEvent' doesn't exist** エラーが表示される [RHPAM-4578]
- **Metrics** タブのコミット履歴がメインブランチ以外のブランチで更新されない [RHPAM-2603]

11.2. KIE SERVER

- 親プロセスの再試行中にセッションをコミットできない [RHPAM-4499]
- **kieserver** イメージから SSL 経由で PostgreSQL DB に接続できない [RHPAM-4400]
- プロセスに `java.util.Date` 型の変数がある場合、生成されたフォームの **showTime** 属性が `true` に設定されていると、時間部分を挿入できない [RHPAM-4513]
- 2つのノードがフェイルオーバーをサポートするように設定されている場合に、**kie-server** で ISPN000474 エラーが生成される [RHPAM-4223]

11.3. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

- Business Central Operator のパスワードに特殊文字を使用できない [RHPAM-4529]
- **baseFilter (AUTH_LDAP_BASE_FILTER)** フィルターは、7.12.0 より前のバージョンと互換性がない [RHPAM-4147]
- Red Hat Process Automation Manager イメージで Red Hat JBoss EAP バージョンを 7.4.8 にアップグレードする [RHPAM-4616]

11.4. デシジョンエンジン

- `BigDecimal` プロパティと数値の間の等価条件が、実行不可能なモデルで正しく機能しない [RHDM-1944]
- 7.10.1 から 7.12.1 にアップグレードした後、変更ブロックで大文字のプロパティが更新されると、予期しないルールが実行される [RHDM-1945]
- `non-executable-model` がマップアクセス演算子を含むバインドのみの Map プロパティに反応しない [RHDM-1952]
- 変更されたファクトが **from** ステートメントで指定されると、変更した後も、一致しないルールが実行される [RHDM-1951]

第12章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.3 で修正された問題

Red Hat Decision Manager 7.13.3 では安定性が増し、このセクションに挙げる問題が修正されました。

12.1. BUSINESS CENTRAL

- Dashbuilder が MILLISECOND タイプをサポートしない [[RHPAM-4659](#)]
- GDST の BRL 条件の式で \$ 文字を使用すると例外が発生する [[RHDM-1938](#)]

12.2. RED HAT BUILD OF KOGITO

- VSCode BPMN エディターを使用して作成された (Java) ServiceTask を含む BPMN ファイルが原因で Maven ビルドでパーサーエラーが発生する [[RHPAM-4604](#)]

12.3. DMN デザイナー

- [GSS](7.13.3) 正規化されていない名前付き要素をキャッチする DMN 拡張ルール [[RHDM-1957](#)]

12.4. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

- Red Hat Decision Manager Kogito Operator 7.x のインストールが **OOMKilled** および **CrashLoopBackOff** で失敗する [[RHPAM-4629](#)]

12.5. デシジョンエンジン

- null プロパティが右側にある場合に等価性チェックを行う mvel MathProcessor で NullPointerException が発生する [[RHPAM-4642](#)]
- **実行可能モデル** がメソッド呼び出しの範囲である場合に BigDecimal 算術で失敗する [[RHDM-1966](#)]
- **mvel jitting** の後にバインド変数を使用する **str** 演算子が失敗する [[RHDM-1965](#)]
- 負の BigDecimal リテラル値を設定すると、実行可能なモデルのビルドに失敗する [[RHDM-1959](#)]

第13章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.4 の既知の制限事項

このセクションでは、Red Hat Decision Manager 7.13.4 の既知の制限をリストします。

13.1. BUSINESS CENTRAL

7.13.4 の Business Central EAP7 deployable zip を更新ツールで更新できない [RHPAM-4838]

問題:

更新ツールを使用して Red Hat Decision Manager 7.13.4 **rhpm-business-central-eap7-deployable** インストールをリリース 7.13.4SP1 に更新しようとする、次のエラーで更新が失敗します。

```
ERROR - The patch is not valid for the distribution and version!
```

回避策:

1. [RHPAM-4838](#) に添付されている **build.metadata** ファイルを、Business Central システム内の **business-central.war/META-INF** ディレクトリーにダウンロードします。
2. 更新ツールを再度実行します。

第14章 RED HAT DECISION MANAGER 7.13.4 で修正された問題

Red Hat Decision Manager 7.13.4 では安定性が増し、このセクションに挙げる問題が修正されました。

14.1. BUSINESS CENTRAL

- Dashbuilder が MILLISECOND タイプをサポートしない [RHPAM-4659]
- Standalone Business Central が Red Hat Enterprise Linux (RHEL) で起動しない [RHPAM-4715]
- データフィルターが期待どおりに機能しない [RHPAM-4664]

14.2. KIE SERVER

- コマンド `mvn spring-boot:run` を使用してビジネスアプリケーションを起動すると、`ClassNotFoundException` が発生する [RHDM-1984]
- RHPAM 7.13.0 以降、リクエスト内の空の値に対する `ClassCastException` 例外の動作が変更しました [RHPAM-4725]
- SpringBoot で Kie サーバー情報を取得するときに `NoSuchMethodError` が発生する [RHPAM-4714]
- `kie-camel` の製品化された `cxfrtbindings-soap` 依存関係が無効です [RHPAM-4683]
- `SubnetworkTuple` を使用した `TupleSetsImpl.setNextTuple` で `NullPointerException (NPE)` が発生する [RHDM-1968]

14.3. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

- RHPAM および BAMOE イメージで JBoss Enterprise Application Server を 7.4.12 にアップグレードする [RHPAM-4762]
- オペレーターによって LDAP レルムで `direct-verification=true` を個別に設定できない [RHPAM-4754]
- OpenShift Container Platform 上の `kie-server` から SSL 経由で外部 PostgreSQL データベースに接続できない [RHPAM-4740]
- `jdbcUrl` プロパティーが設定されていない場合は、URL 環境を設定しない [RHPAM-4713]
- 従来のデータソーススクリプトでは、`mariadb` ドライバーの XA プロパティーが考慮されません [RHPAM-4712]
- XA 接続 URL プロパティーを正しく設定する [RHPAM-4711]
- SSL が無効な場合、KIE Server `configMap` が SSL ルートを指す [RHPAM-4709]
- SSL が設定されていないと Business Central にログインできない [RHPAM-4705]
- `NoSuchMethodException`: メソッド `setURL` が見つからない [RHPAM-4704]
- `rhpm-7-openshift-image/quickstarts/router-ext` の `pom.xml` ファイルに間違ったバージョンが含まれている [RHPAM-4682]

14.4. デシジョンエンジン

- DRL ファイルの実行時に不要な警告メッセージが表示される [[RHPAM-4758](#)]
- **kmodule.xml** の **kbase.name** が空の場合、**MemoryFileSystem** で **NullPointerException** エラーが発生する [[RHPAM-4755](#)]
- 非実行可能モデルと **mvel** ダイアレクトでは、**modify-block** が RHS の **if-block** などのブロック内に配置されると、変更が正しく機能しない [[RHDM-1985](#)]
- 7.13.2 にアップグレードした後、**BigDecimal** の等価性がパターンに含まれる場合、ルールが正しく起動しない [[RHDM-1974](#)]
- 実行可能モデルは、プロパティの反応性のために LHS のメソッド呼び出しで同じタイプの別のパターンからバインド変数を解決しない [[RHDM-1969](#)]
- 実行可能モデルは、プロパティの反応性のために LHS のメソッド呼び出しのバインド変数を解決しない [[RHDM-1967](#)]

付録A バージョン情報

このドキュメントの最終更新日: 2023 年 11 月 16 日 (木)

付録B お問い合わせ先

Red Hat Decision Manager ドキュメントチーム: brms-docs@redhat.com